

平成 21 年度公立高校入試問題の傾向 社会

●地理分野の傾向

- ・例年通り，グラフ・表などの初見の統計資料を読み取る問題が主流。いくつかの資料を複合させて考えさせる問題や複雑な読み取りが要求される問題も引き続き出題されており，年々難度が高くなっている。
- ・資料から読み取ったことがらを短文記述で答えさせる問題がやや少なくなり，読み取れることがらについて述べた文章の記号選択の問題が増えている。
- ・見慣れない地図（中心が違う，図法が特殊，など）や部分地図を使って，大陸や国の位置関係や名称を問う問題が増えている。

●歴史分野の傾向

- ・昨年同様，単に知識を問う問題よりも，歴史的できごとの原因・結果など，歴史の流れの理解を問う出題が増えている。また，歴史学習の意義を考えさせる問題も出題された。
- ・例年通り，歴史史料や歴史的できごとの年代順並び替えがかなり多く出題されている。

●公民分野の傾向

- ・政治分野では「裁判員制度」「市町村合併」，経済分野では「社会保障制度」「食料自給率」「地産地消」「二酸化炭素排出量」「地球温暖化」などの時事的なことがらをトピックにした出題が多く見られた。
- ・政治分野の「裁判員制度」については，制度制定のねらいを問う問題も出題された。
- ・経済分野では，「円高・円安」に関する問題が昨年に引き続き複数県で見られた。また，地方への税源移譲に関する問題も見られた。
- ・雇用形態の問題など，社会問題の現状を資料から読み取らせて記述させる問題も出題されている。

●全体的な傾向

- ・地理では複数の初見資料から特徴を読み取る力，歴史では歴史の大きな流れや因果関係への理解力，公民では公民的知識を用いて身の回りの事象や社会問題を読み解く力，が問われる傾向にある。
- ・資料を読み取る問題がさらに増えており，思考力・総合力を問う傾向がはっきりとしている。
- ・昨年に引き続き，理解力を見るだけではなく，そこから発展して自分の意見やアイデアを書かせるという表現力も要求されるタイプの問題が出題されている。

以上の入試傾向を受け，基礎基本の知識の確実な定着，およびそれらの知識を基にして社会的事象を読み解く総合力の育成を，今後の社会科の目標として教材製作に反映させていきたい。